

登録番号	プロトコール名			
C90077B1	多発性骨髄腫 DaraLd sc療法(3-6コース)			
診療科	血液内科	1クールの日数	28日	
審査日	2021年6月28日	所要時間	5分	適応外使用 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
適応病名	多発性骨髄腫	放射線療法	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
実施部署	<input checked="" type="checkbox"/> 外来 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟 <input type="checkbox"/> その他( )			
適応分類	<input checked="" type="checkbox"/> 初発 <input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発 <input type="checkbox"/> 術後補助 <input type="checkbox"/> 術前補助 <input type="checkbox"/> その他( )			
番号	抗がん薬名	1日投与量	投与方法	投与日(d1、d8等)
1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ (ダラキューロ配合皮下注)	1800mg	皮下注	day1,15
2	レナリドミド(レブラミド)	25mg	経口	day1-21
3	デキサメタゾン(レナデックス)	40mg	経口	day1,8,15,22
4				
5				
6				
7				
8				
エビデンスレベル	<input checked="" type="checkbox"/> 治療 (エビデンスレベル <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 )			
ガイドライン文献名	N Engl J Med 2016;375:1319-31. Lancet Haematol. 2020 May;7(5):e370-e380. Br J Haematol. 2021 Mar;192(5):869-878.			
その他 (減量・増量 規定、プロト コールに関 する補足説 明など)	ダラキューロ投与によるinfusion reactionを軽減させるために、本剤投与開始1～3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与する。 レブラミドの投与量は腎機能や血球減少の程度に応じて適宜調整する。 デキサメタゾンは75歳以上の場合、BMI<18.5の場合に20mg/週に減量する。			

プロトコールに関する解説	

## がん化学療法処方

プロトコール名		1クールの日数	
多発性骨髄腫 DaraLd sc療法(3-6コース)		28日	
投与日	薬品名(※赤字は抗がん薬)	投与経路	投与時間
day1,15	① レナデックス 40mg、カロナール 400mg、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩徐放錠6mg §ダラキューロ投与1時間前までに内服。問題なければ15分前まで短縮可。 ② <b>ダラキューロ配合皮下注</b> 1800 mg 投与1時間前までにレナデックス20mg、カロナール400mg、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩徐放錠 6mg内服。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。 調製後4時間以内に投与完了。 臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に、約3～5分かけて投与する。	経口  皮下	3-5分
day8,22	① レナデックス 40mg	経口	朝食後
day1-21	① <b>レブラミド</b> 25mg	経口	朝食後
プロトコール 適応時 表示コメント	day1-21にレブラミド25mg内服。 ダラキューロ投与1時間前までにレナデックス40mg+d-クロルフェニラミンマレイン酸塩徐放錠6mg+カロナール400mg内服する。問題なければ15分前まで短縮可。		
照射併用時 照射線量	グレイ (備考欄: )		